

## 2022年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年6月3日

上場会社名 ゼネラルパッカー株式会社  
 コード番号 6267 URL <https://www.general-packer.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 牧野 研二  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 杉田 篤紀  
 四半期報告書提出予定日 2022年6月8日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名  
 TEL 0568-23-3111

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年7月期第3四半期の連結業績(2021年8月1日～2022年4月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年7月期第3四半期	5,962	7.9	898	16.6	904	17.0	624	16.7
2021年7月期第3四半期	6,475	0.6	770	38.4	773	38.6	535	38.0

(注) 包括利益 2022年7月期第3四半期 646百万円 (18.6%) 2021年7月期第3四半期 544百万円 (43.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年7月期第3四半期	352.90	
2021年7月期第3四半期	302.89	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年7月期第3四半期	10,310	5,624	54.6
2021年7月期	9,806	5,092	51.9

(参考) 自己資本 2022年7月期第3四半期 5,624百万円 2021年7月期 5,092百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年7月期		25.00		45.00	70.00
2022年7月期		25.00			
2022年7月期(予想)				45.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年7月期期末配当金の内訳 普通配当 35円00銭 記念配当 10円00銭

### 3. 2022年7月期の連結業績予想(2021年8月1日～2022年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,600	2.1	1,045	1.0	1,050	0.7	730	1.5	412.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1 社 (社名) General Packer America Corporation、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年7月期3Q	1,798,800 株	2021年7月期	1,798,800 株
期末自己株式数	2022年7月期3Q	26,283 株	2021年7月期	32,056 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年7月期3Q	1,769,788 株	2021年7月期3Q	1,766,744 株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式が含まれております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限に加え、世界的な半導体不足やロシアによるウクライナ侵攻に伴う資源価格の高騰の影響も重なるなど、景気は厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは「連結グループの安定成長基盤整備の時期」と位置づけた第6次中期経営計画（2021年7月期～2023年7月期）で掲げた基本戦略の一層の推進を図るべく、グローバル展開加速に向けた販売体制の確立とグループ会社間の事業連携強化を重要課題として、取り組みを強化してまいりました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、生産機械事業においては増収となったものの、包装機械事業における製袋自動包装機及び包装システムの販売実績の減少などが影響し、前年同期に比べ512百万円の減収となりました。利益につきましては、生産機械事業における増収効果やグループ全体での売上総利益の改善により、売上総利益が前年同期を上回ったことなどから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は5,962百万円（前年同期比7.9%減）、営業利益は898百万円（前年同期比16.6%増）、経常利益は904百万円（前年同期比17.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は624百万円（前年同期比16.7%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (包装機械事業)

主力商品であるメカトロハイスペック包装機の販売実績は前年同期並みであったものの、その他の給袋自動包装機や製袋自動包装機及び包装システムの販売実績が減少した影響により、売上高は5,129百万円（前年同期比16.7%減）、営業利益は788百万円（前年同期比9.4%減）となりました。

#### (生産機械事業)

大型プラント案件の販売実績が増加したことに伴い、売上高は838百万円（前年同期比165.5%増）、営業利益は109百万円（前年同期は営業損失100百万円）となりました。

なお当社グループの各四半期の売上高は、受注案件の売上計上時期の偏りと高額案件の有無等により、大きく変動する傾向にあります。一方、販売費及び一般管理費は比較的変動が少ないことから、利益につきましても、売上高に大きく影響されることとなり、各四半期の業績は大きく変動する傾向があります。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は10,310百万円となり、前連結会計年度末に比べて504百万円増加いたしました。この主たる要因は、現金及び預金が353百万円減少したものの、棚卸資産が585百万円、有形固定資産が296百万円、それぞれ増加したこと等によります。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,686百万円となり、前連結会計年度末に比べて28百万円減少いたしました。この主たる要因は、前受金が771百万円増加したものの、仕入債務が315百万円、未払法人税等が170百万円、借入金が163百万円、その他流動負債が140百万円、それぞれ減少したこと等によります。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は5,624百万円となり、前連結会計年度末に比べて532百万円増加いたしました。この主たる要因は、利益剰余金が498百万円増加したこと等によります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年7月期通期の連結業績予想につきましては、2022年3月4日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,959,474	2,605,662
受取手形及び売掛金	1,523,063	1,254,483
電子記録債権	201,081	148,124
仕掛品	1,819,956	2,327,828
原材料及び貯蔵品	375,475	452,811
未収入金	235,380	440,432
その他	61,994	234,073
流動資産合計	7,176,426	7,463,415
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	404,752	394,609
土地	786,692	786,692
その他(純額)	74,207	380,389
有形固定資産合計	1,265,652	1,561,691
無形固定資産		
のれん	550,447	523,077
技術資産	496,114	471,446
その他	96,457	88,436
無形固定資産合計	1,143,019	1,082,959
投資その他の資産	221,308	202,735
固定資産合計	2,629,980	2,847,386
資産合計	9,806,406	10,310,802
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,356,336	1,101,721
電子記録債務	568,206	507,251
短期借入金	100,000	—
1年内返済予定の長期借入金	83,306	79,992
未払法人税等	264,783	94,261
前受金	1,181,140	1,952,510
賞与引当金	—	82,142
役員賞与引当金	29,750	—
製品保証引当金	22,571	17,224
受注損失引当金	30,235	—
その他	358,969	218,034
流動負債合計	3,995,298	4,053,138
固定負債		
長期借入金	333,380	273,386
株式給付引当金	35,800	29,816
退職給付に係る負債	42,000	42,826
その他	307,723	286,835
固定負債合計	718,903	632,864
負債合計	4,714,202	4,686,003

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	251,577	251,577
資本剰余金	306,392	306,392
利益剰余金	4,586,316	5,085,053
自己株式	△65,912	△53,725
株主資本合計	5,078,373	5,589,297
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,971	14,447
為替換算調整勘定	859	21,054
その他の包括利益累計額合計	13,831	35,501
純資産合計	5,092,204	5,624,799
負債純資産合計	9,806,406	10,310,802

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年8月1日 至2021年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年8月1日 至2022年4月30日)
売上高	6,475,076	5,962,426
売上原価	4,589,513	3,915,942
売上総利益	1,885,562	2,046,483
販売費及び一般管理費	1,114,934	1,148,297
営業利益	770,627	898,186
営業外収益		
受取利息	226	351
受取配当金	437	565
仕入割引	2,151	1,853
為替差益	—	2,894
その他	1,931	1,699
営業外収益合計	4,747	7,364
営業外費用		
支払利息	1,581	1,066
為替差損	649	—
その他	15	—
営業外費用合計	2,247	1,066
経常利益	773,128	904,484
特別損失		
固定資産除却損	813	469
特別損失合計	813	469
税金等調整前四半期純利益	772,315	904,014
法人税、住民税及び事業税	308,660	262,700
法人税等調整額	△71,472	16,764
法人税等合計	237,187	279,464
四半期純利益	535,127	624,550
親会社株主に帰属する四半期純利益	535,127	624,550

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)
四半期純利益	535,127	624,550
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,107	1,475
為替換算調整勘定	4,617	20,195
その他の包括利益合計	9,725	21,670
四半期包括利益	544,852	646,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	544,852	646,220

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は船積時に収益を認識しておりました輸出取引の一部について、検収時に収益を認識する方法に変更しております。また、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が306,434千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ93,018千円減少しております。利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	包装機械事業	生産機械事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,160,080	314,995	6,475,076	—	6,475,076
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	805	805	△805	—
計	6,160,080	315,800	6,475,881	△805	6,475,076
セグメント利益又は損失(△)	870,692	△100,515	770,177	450	770,627

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額450千円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	包装機械事業	生産機械事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,125,162	837,263	5,962,426	—	5,962,426
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,295	1,201	5,497	△5,497	—
計	5,129,458	838,465	5,967,923	△5,497	5,962,426
セグメント利益	788,515	109,220	897,736	450	898,186

(注) 1 セグメント利益の調整額450千円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「包装機械事業」の売上高は306,434千円、セグメント利益は93,018千円、それぞれ減少しております。